様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月 １３ 日現在

機関番号：１７１０２
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2014～2017
課題番号：２６２８４０９７

研究課題名（和文）学際的視点からみた国際貿易都市博多の総合的研究

研究課題名（英文）A comprehensive study of international trade city Hakata from an interdisciplinary perspective

研究代表者
佐伯　弘次（Saeki, Koji）

九州大学・人文科学研究院・教授

研究者番号：７０１６７４１９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　9,900,000円

研究成果の概要（和文）：博多・福岡地域について、古代から近代まで通時的に研究を行った。古代の村落と筑紫館の考察、中世都市博多の都市・貿易商人・宗教の考察、近世地誌の考察、近代都市福岡の形成に関する考察を行った。また、古代・中世博多関係の史料に関しては、データベースを作成した。さらに博多と関係の深い中世の箱崎・鷹島・対馬、近世の平戸の研究を行い、博多との比較の素材とした。朝鮮関係では、宋や日本との航路の問題や対日本遠征の軍粮について検討し、三浦の財政的問題について検討した。中国関係では、元日外交文書や宋・元対立・戦争と官僚等について考察した。さらに考古学関係学会と連携して、研究会やシンポジウムを開催した。

研究成果の概要（英文）：We conducted reseach on the Hakata-Fukuoka area from ancient age to modern age. We considered of ancient villages and Chikushikan,urban,trading merchants,religion of medieval city Hakata,modern periodical journals,formation of modern city Fukuoka.In addition, we conducted research on medieval Hakozaki,Takashima,Tsushima and Hirado in modern age that are closely related to Hakata. In relation to Korea, we examined the problem of navigation route with Song and Japan and the troops of expedition to Japan, and further examined Sampo's financial problem. In relation to China, we examined Yuan-Japan diplomatic documents, Song-Yuan confrict, war and bureaucracy.

研究分野：日本史

キーワード：博多　福岡　筑紫館　中世都市　貿易商人　箱崎　朝鮮　元

１．研究開始当初の背景

日本中世の貿易都市博多については、古くから多くの研究が積み重ねられてきたが、日本史・考古学・都市工学等々、それぞれの分野で個別に検討される傾向が強かった。本研究では、そうした従来の研究を基礎とした上で、日本史・考古学・朝鮮史・中国史等の研究者が集まり、より多様な視野から、多面的な検討をする必要があると判断し、本共同研究を開始することとなった。

２．研究の目的

前近代の日本において主要な国際貿易港であった博多の都市としての展開と東アジアにおける位置づけを、学際的に糺明しようとするものである。

第 1 の目的は、前近代都市としての博多の学際的研究である。その都市的展開と東アジアにおける位置づけを、文献史学・考古学双方から検討する。

第 2 の目的は、都市博多の通時的研究である。古代から近代における都市博多の展開を、通時的に検討する。

第 3 の目的は、東アジア諸国の貿易港としての比較史的研究である。琉球史・朝鮮史・中国史の分野から、各国の貿易港との都市的な比較を行い、東アジア交易における貿易港としての共通性と差異を検証する。

３．研究の方法

九州大学に所属する日本史・東アジア史関係の研究者を中心にして、研究組織を立ち上げ、さらに博多遺跡群の発掘担当者や海外の研究者の研究協力を求める。九州大学において、定期的に会議・研究会を開催し、強固な研究体制の構築を図る。国内外の関係史資料の調査と収集を行い、国内外の貿易都市・地域の現地調査・文献調査を行う。収集した史資料については、データベースを作成する。研究成果については、学会や研究会等でその成果を公表する。

４．研究成果

（1）国内調査

福岡市内・平戸・那覇・対馬・中津・隠岐島等で現地調査・史料調査を行った。平戸・那覇・対馬は、研究の主題である博多と極めて関係が深い地域であり、比較研究の素材とした。平戸と対馬に関しては、研究会等で両島の研究を実施し、歴史的性格が博多と共通することを確認した。また隠岐島は、博多と異なり、東アジア的要素が少なく、むしろ国内の中国地方や京都との関係が深いことを確認した。

（2）海外調査

海外調査では、中国と韓国の調査を行った。中国では、福建省・浙江省・江蘇省の沿海部の現地調査を行い、日本・博多との交流の足跡を検討した。特に寧波周辺は、日本・博多と関係が緊密であることを確認した。韓国では、国立中央博物館で、新安沖沈没船の出土遺物を調査した。出土陶磁器は博多遺跡群と共通点があり、出土木簡には博多の禅寺や筥崎宮の関係者の名前が見え、博多が 14 世紀前半期の東アジアの貿易拠点であり、博多・箱崎の商人や僧侶がこの貿易船に便乗して貿易活動を行ったことを確認した。

（3）研究の成果

博多・福岡地域について、古代から近代までの通時的な研究を行った。古代の村落と迎賓館である筑紫館の考察を行い、村落の歴史展開や筑紫館における外交使節の滞在状況について検討を行った。

中世都市博多に関しては、都市・貿易商人・宗教の考察を行った。特に 15 世紀の貿易商人平方氏については、その実像を明らかにした。平方吉久は、陳外郎の子で、博多に住む商人であったが、1419 年の応永の外寇の後、日本国王使の副使として朝鮮に派遣されたことで知られている。今回、その関係史料を探したが、宋希璟『老松堂日本行録』には多く登場するものの、『朝鮮王朝実録』や日本国内史料には登場せず、謎が多い人物であることを再確認した。その後、博多の平方氏は、兵庫に移住し、朝鮮通交を継続したとされるが、15 世紀後半には偽使となっており、対馬宗氏がその偽使化の主体であり、16 世紀代には、対馬宗氏と関係が深い寺院が、平方氏の朝鮮通交権を所持していたことを明らかにした。こうした博多商人の偽使化は、他の事例でも確認でき、一つの偽使化パターンであったことが考えられる。

また、近世地誌における博多等の記述の考察、近代都市福岡の形成に関する考察を行った。古代・中世の博多に関しては、データベースを作成した。

さらに、博多と関係が深い中世の箱崎・鷹島・対馬、近世の平戸の研究を行った。朝鮮関係では、宋や日本との航路の問題や対日本遠征の軍糧を検討し、さらに博多と関係が深い三浦の財政的問題について考察した。中国関係では、元日外交文書や宋・元の対立・戦争と官僚等について検討を行った。2017 年には、中世都市研究会を博多で開催し、考古学・文献史学双方からの都市博多へのアプローチを行った。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　20 件）

1.伊藤幸司、博多と鎌倉、学際的視点からみた国際貿易都市博多の総合的研究、査読無、2018、1-10

2.岩﨑義則、末永虚舟と『筑前早鑑』、学際的視点からみた国際貿易都市博多の総合的研究、査読無、2018、23-51

3.六反田豊、朝鮮初期三浦倭料の調達様式と財源、学際的視点からみた国際貿易都市博多

の総合的研究、査読無、2018、53-83
4.森平雅彦、近世朝鮮津通信使の対馬海峡航路、学際的視点からみた国際貿易都市博多の総合的研究、査読無、2018、85-125
5.坂上康俊、筑紫館利用外交使節年表（701-777)、学際的視点からみた国際貿易都市博多の総合的研究、査読無、2018、145-154
6.森平雅彦、韓中交流を支えた島々と島人たち、高麗歴史像の探索、1、査読無、2017、283-300
7.舩田善之、モンゴル帝国勃興の鍵に迫る一冊、東方、423 号、査読無、2016、24-28
8.佐伯弘次、平方吉久考、博多研究会誌、14 号、査読無、2017、33-41
9.舩田善之、従元日外交文書来看大蒙古国公文制度、元史及民族与辺疆研究集刊、30 号、査読無、2016、1-25
10.Iwasaki Yoshinori、The Akita domain and Osaka merchant houses at the time of the establishment of the Meiwa copper agency、Trade and Commerce in Eastern Chinese Sea、1、査読有、2015、25-45
11.森平雅彦、モンゴルの日本侵攻と高麗における軍需調達問題、水中考古学手法による元寇沈船の調査と研究、1、査読無、2016、169-202
12.舩田善之、孟津河渡司から沿海万戸府へ、史淵、153 輯、査読無、2016、1-30
13.佐伯弘次、蒙古襲来以後の日本の対高麗関係、史淵、153 輯、査読無、2016、1-28
14.佐伯弘次、弘安の役と鷹島、水中考古学手法による元寇沈船の調査と研究、1 巻、査読無、2015、97-104
15.佐伯弘次、天正期の「博多折座」をめぐって、博多研究会誌、13 号、査読無、2015、53-56
16.岩﨑義則、安政五年平戸城「年中祭式帳」について、史淵、152 輯、査読無、2015、1-37
17.坂上康俊、対馬の防人と烽、アジア遊学、177 号、査読無、2014、17-27
18.森平雅彦、高麗・宋間における使船航路の選択とその背景、東洋文化研究所紀要、166 号、査読無、2014、67-123
19.佐伯弘次、対馬の砥石、アジア遊学、177 号、査読無、2014、189-201
20.佐伯弘次、対馬における古文書採訪と中世文書、アジア遊学、177 号、査読無、2014、266-279

〔学会発表〕（計　10 件）
1.佐伯弘次、室町時代における大内氏と少弐氏、大内氏歴史文化研究会、2017 年 3 月 5 日、山口県立図書館
2.坂上康俊、古代・中世移行期の村落－福岡市域を中心に－、歴史学研究会古代史部会、2017 年 1 月 21 日、早稲田大学
3.伊藤幸司、港町複合体としての中世博多湾と箱崎、九州史学研究会、2016 年 10 月 15 日、九州大学
4.伊藤幸司、海域ネットワークと宗教、多文化関係学会、2016 年 10 月 2 日、佐賀大学
5.舩田善之、蒙古帝国与華北社会之間、中国法政大学法律文献学、2016 年 9 月 23 日、中国法政大学
6.舩田善之、蒙古帝国的世界戦略与軍事戦略、西華師大講壇第 210 期、2016 年 3 月 19 日、西華大学
7.森平雅彦、韓国史に何を求めるか？、ソウル大学校韓国学研究院海外著者特講、2016 年 3 月 14 日、ソウル大学校
8.森平雅彦、モンゴルの日本侵攻における高麗の糧料拠出量、九州史学会、2015 年 12 月 13 日、九州大学
9.佐伯弘次、モンゴル襲来前後における日本・高麗の相互認識、韓日関係史学会、2015 年 9 月 12 日、ソウルKホテル
10.舩田善之、従元日外交文書来看大蒙古国公文制度、中国歴代渉海碑刻学術研討会、2014 年 8 月 6 日、中国南京大学

〔図書〕（計　2 件）
1.Saeki Koji、The East Asian War,1592-1598、2015、ROUTLEDGE、401（11-21）
2.坂上康俊、摂関政治と地方社会、2015、吉川弘文館、258

〔産業財産権〕

○出願状況（計　0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
佐伯　弘次（SAEKI,Koji）
九州大学・大学院人文科学研究院・教授
研究者番号：70167419

(2)研究分担者
坂上　康俊（SAKAUE,Yasutoshi）
九州大学・大学院人文科学研究院・教授

研究者番号： 30162275

森平　雅彦（MORIHIRA,Masahiko）
九州大学・大学院人文科学研究院・教授
研究者番号：50345245

岩﨑　義則（IWASAKI,Yoshinori）
九州大学・大学院人文科学研究院・准教授
研究者番号：60294849

舩田　善之（FUNADA,Yoshiyuki）
広島大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号：50404041

(3)連携研究者
伊藤　幸司（ITO,Koji）
九州大学・大学院比較社会文化研究院・准教授
研究者番号：30364128

六反田　豊（ROKUTANDA,Yutaka）
東京大学・大学院人文社会系研究科・教授
研究者番号：40220818

山口　輝臣（YAMAGUCHI,Teruomi）
東京大学・大学院総合文化研究科・准教授
研究者番号：20314974